

11/2(水) 13:00-18:30

第1部 「地方における芸術祭の可能性」

近年国内外各地でトリエンナーレ、ビエンナーレといった各種芸術祭が開催されている。青森にふさわしい芸術祭とはどのようなものか。縄文遺跡をはじめとする青森県の文化資産や自然をどのように現代のアートと結びつけ、いかにして地域住民を巻き込んでいくかについて、国内外各地の芸術祭関係者の事例の報告と経験を踏まえ、議論を進める。

パネリスト

五十嵐太郎

(東北大学大学院教授/ヴェネツィア国際建築ビエンナーレ・コミッショナー)

南條史生

(森美術館館長/シンガポールビエンナーレ・ディレクター)

逢坂恵理子

(横浜美術館館長/横浜トリエンナーレ総合ディレクター)

植松由佳

(国立国際美術館主任研究員/ヴェネツィアビエンナーレ・コミッショナー)

司会 飯田高誉

(青森県立美術館美術統括監/堂島リバービエンナーレディレクター)

11/3(木祝) 13:00-18:00

第2部 「文化資産と今日のミュージアム～縄文と現代美術を中心に」

縄文土偶、洞窟壁画等の考古遺物と先史時代美術やアフリカ、南太平洋などの民族美術を今日のミュージアムではどのように展示し、創造的な活動に結び続けているかについて、事例を紹介し、青森県の縄文をはじめとする文化資産を、近現代の美術へと結びつけ、新たな創造のあしがかりにしていくための方向性について議論する。

パネリスト

山下裕二

(明治学院大学教授)

青木 淳

(建築家/青森県立美術館設計者)

岡田康博

(青森県教育庁文化財保護課長)

長谷川孝治

(青森県立美術館舞台芸術総監督)

工藤健志

(青森県立美術館学芸主幹)

飯田高誉

(青森県立美術館美術統括監)

司会 池田 亨

(青森県立美術館学芸主幹)

基調講演

山下裕二

日本美術史研究者、明治学院大学教授。専門は室町時代の水墨画だが、縄文から現代まで幅広く紹介する。

主な著書に『室町絵画の残像』『岡本太郎宣言』『日本美術の20世紀』など。

青木 淳

青森県立美術館設計者。2000年に行われた青森県立美術館の設計競技では、393件の応募の中から、三内丸山遺跡の発掘現場から着想を得、土の素材を用いた床や壁をとり入れるなど大胆な発想による設計で最優秀賞に輝いた。個人住宅をはじめ、公共建築から商業施設まで、多岐にわたる独創的な設計が高い評価を得てきた。代表的な作品として、日本建築学会作品賞を受賞した「潟博物館」(1997)、「ルイ・ヴィトン名古屋栄店」(1999)に始まるルイ・ヴィトンの店舗設計などがある。

同時開催

常設展 特集「縄文/創造の原点から」

2011年10月15日(土) - 12月11日(日)

企画展「今和次郎 採集講義」

2011年10月29日(土) - 12月11日(日)

主催：青森県、自治総合センター 後援：総務省

お問い合わせ：青森県立美術館 〒038-0021 青森市安田字近野 185 Tel 017-783-3000 Fax 017-783-5244 <http://aomori-museum.jp/>

このシンポジウムは全国モーターボート競走施行者協議会からの拠出金を受けて実施するものです。

縄文/創造の原点から

無聴料講

シンポジウム

会場：青森県立美術館シアター

※事前申込は必要ありません。

青森県立美術館